

平成30年度北斗市観光入込客数について

1 観光入込客数の概況

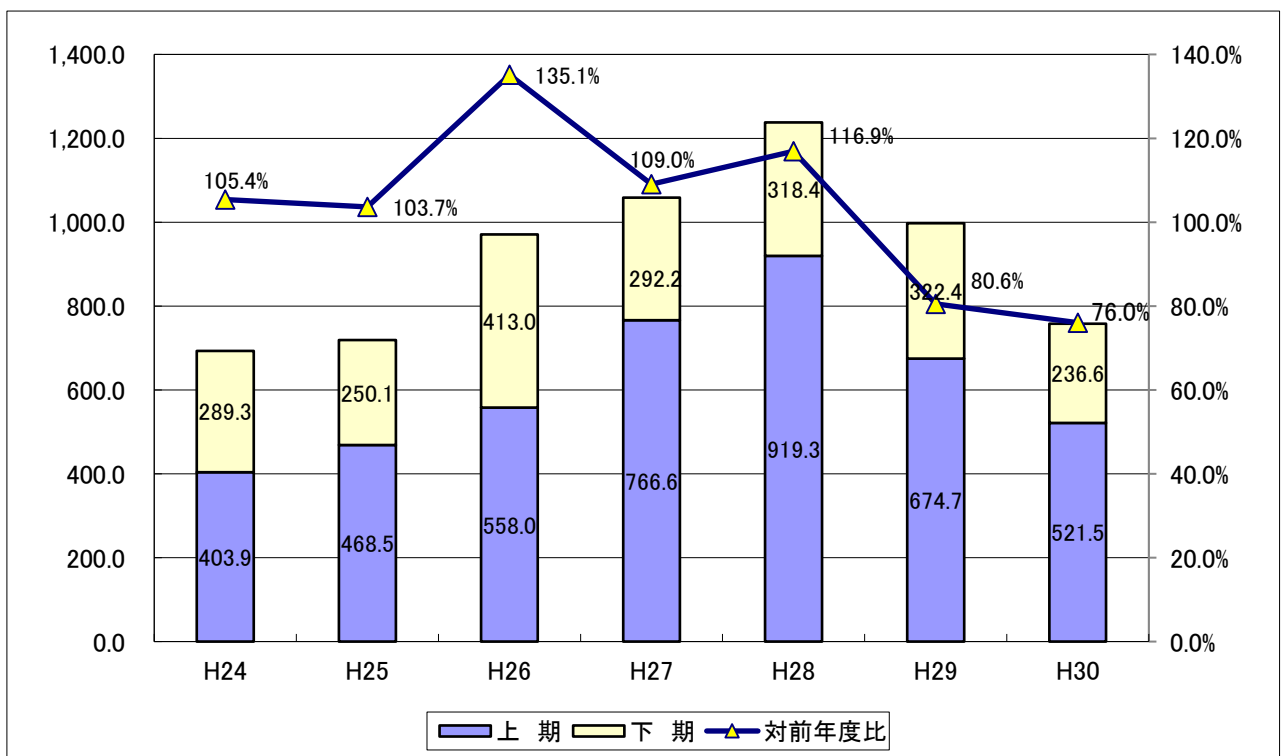
平成30年度の観光入込客数は、上期（4月～9月）は約52万1千人、下期（10月～3月）は約23万7千人、総数は約75万8千人となった。

北海道新幹線の開業効果が落ち着いてきたことや、6月中旬以降の天候不良、7月以降に相次いだ台風被害、9月6日の北海道胆振東部地震などの影響により、前年からは約24万人と大幅に減少し前年比は76%となった。

■年度別推移

（単位：千人）

区 分	上期		下期		合 計		前年比
	入込客数	構成比	入込客数	構成比	入込客数	構成比	
平成24年度 (2012)	403.9	58.3%	289.3	41.7%	693.2	100.0%	105.4%
平成25年度 (2013)	468.5	65.2%	250.1	34.8%	718.6	100.0%	103.7%
平成26年度 (2014)	558.0	57.5%	413.0	42.5%	971.0	100.0%	135.1%
平成27年度 (2015)	766.6	72.4%	292.2	27.6%	1,058.8	100.0%	109.0%
平成28年度 (2016)	919.3	74.3%	318.4	25.7%	1,237.7	100.0%	116.9%
平成29年度 (2017)	674.7	67.7%	322.4	32.3%	997.1	100.0%	80.6%
平成30年度 (2018)	521.5	68.8%	236.6	31.2%	758.1	100.0%	76.0%



2 道外・道内別、宿泊・日帰り別の入込客数の状況

道外・道内客別では、道外客は約19万5千人（対前年比96.4%）で、道内客は約56万3千人（同70.8%）といずれも減少となった。

道内客は全体の入込客数と同様に減少傾向にあるが、道外客に関してはほぼ横ばい状態にあると言える。

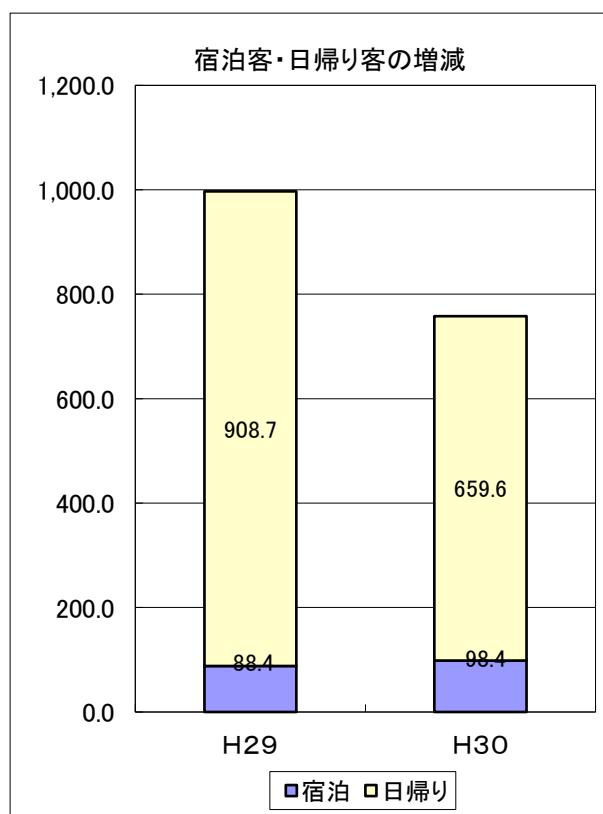
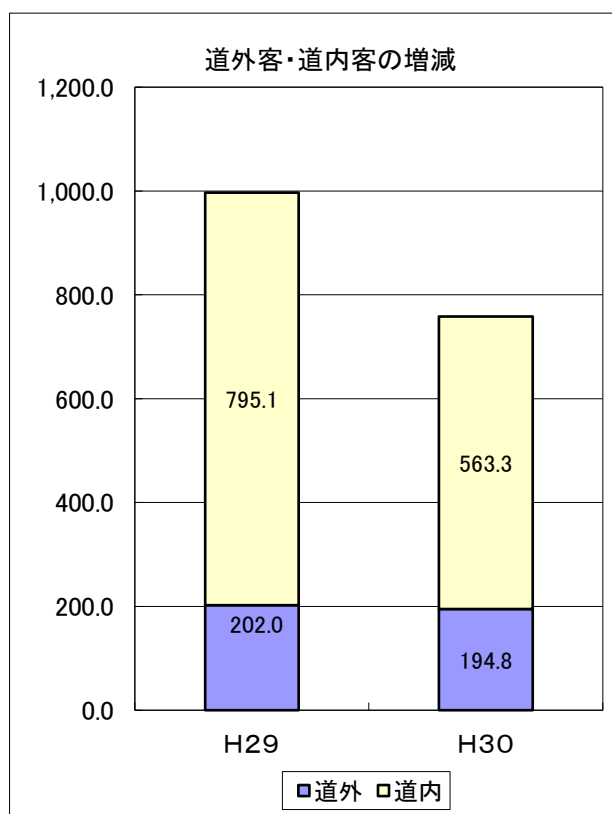
宿泊・日帰り客別では、宿泊客は約9万8千人（対前年比111.3%）、日帰り客は約66万人（同72.6%）となった。

全体の観光入込客数が低調な中で、宿泊客数に関しては昨年の入込客数を上回る結果となり、この要因としては、JR新函館北斗駅前に立地するホテルの入込客数が、市全体の宿泊客数を押し上げている。今後駅前に開業するホテルの入込状況によっては更なる宿泊客数の増加が期待できる。

■前年との比較

（単位：千人）

区 分			H 2 9	H 3 0	前年差	前年比
道外・道内別	客数	道外	202.0	194.8	△ 7.2	96.4%
		道内	795.1	563.3	△ 231.8	70.8%
	構成比	道外	20.3%	25.7%	-	-
		道内	79.7%	74.3%	-	-
宿泊・日帰り別	客数	宿泊	88.4	98.4	10.0	111.3%
		日帰り	908.7	659.6	△ 249.1	72.6%
	構成比	宿泊	8.9%	13.0%	-	-
		日帰り	91.1%	87.0%	-	-



3 月別、四半期別の観光入込客数の状況

月別の入込では、4月のみほぼ横ばい状態となっている。そのほかの月に関しては台風や地震等の天災等が影響し、減少となった。

■前年との比較

(単位：千人)

区分		月別				四半期別			
		H29	H30	前年差	前年比	H29	H30	前年差	前年比
第1四半期	4月	81.4	80.3	△ 1.1	98.6%	355.3	284.6	△ 70.7	80.1%
	5月	193.0	143.4	△ 49.6	74.3%				
	6月	80.9	60.9	△ 20.0	75.3%				
第2四半期	7月	113.5	86.7	△ 26.8	76.4%	319.4	236.9	△ 82.5	74.2%
	8月	114.0	87.9	△ 26.1	77.1%				
	9月	91.9	62.3	△ 29.6	67.8%				
第3四半期	10月	86.5	64.5	△ 22.0	74.6%	188.5	141.5	△ 47.0	75.1%
	11月	56.8	43.5	△ 13.3	76.6%				
	12月	45.2	33.5	△ 11.7	74.1%				
第4四半期	1月	45.4	31.5	△ 13.9	69.4%	133.9	95.1	△ 38.8	71.0%
	2月	40.7	27.2	△ 13.5	66.8%				
	3月	47.8	36.4	△ 11.4	76.2%				
合計		997.1	758.1	△ 239.0	76.0%	997.1	758.1	△ 239.0	76.0%

